

スギウラ株式会社027-361-5808

スギウラ株式会社

〒370-0006
高崎市問屋町 2-2-8

電話番号
代 表
027-361-5808
営業1課
027-361-5734
営業2課
027-361-5780

Fax
027-361-1272

当社 Web サイト
www.kamisugiura.co.jp

スギウラ株式会社

〒370-0006
高崎市問屋町 2-2-8

電話番号
代 表
027-361-5808
営業1課
027-361-5734
営業2課
027-361-5780

Fax
027-361-1272

当社 Web サイト
www.kamisugiura.co.jp

2課商品ラインナップ④

第4回ポリ袋です。家庭ごみを入れるためのゴミ袋、スーパー等の買い物をしたとき商品を入れるためのレジ袋、チャック付のポリ袋、規格サイズのポリ袋などを取り扱っています。

ゴミ袋は容量ごとに 20ℓ・30ℓ・45ℓ・70ℓ・90ℓの5種類に分けられ、45ℓ以上のポリ袋は有色のものや厚みの違うものがあります。一般的な家庭のゴミ処理に使用されるのは容量が45ℓで透明または半透明のものです。通常の長方形の袋だけでなく取っ手のあるレジ袋式タイプやロール状に巻かれているタイプの商品もあります。

レジ袋は普段買い物で使用されている乳白半透明のものだけでなく、用途に合わせて様々な種類の商品を取り揃えています。仕出し弁当を入れるためのお弁当用、一升瓶やビール瓶を入れるためのビール・酒用、植木鉢用のものなどあります。

チャック付のポリ袋はワンタッチで密閉でき、しかも開閉が自由にできます。外から見ても中がすぐわかるように透明になっているので、各種小物製品、食品、衛生用品、事務用品、薬袋などを入れるのに適しています。詳しいサイズは表1を参照にしてください。

(表1)

号数	寸法(mm) 厚さ×幅×長さ(チャック下)
A-4	0.04×50×70
B-4	0.04×60×85
C-4	0.04×70×100
D-4	0.04×85×125
E-4	0.04×100×140
F-4	0.04×120×170
G-4	0.04×140×200
H-4	0.04×170×240
I-4	0.04×200×280
J-4	0.04×240×340
K-4	0.04×280×400

規格サイズのポリ袋もチャック付のポリ袋同様に小物を入れるのに適した商品です。サイズは表2を参考にしてください。

(表2)

号数	寸法(mm) 厚さ×巾×長さ
No1	0.03×70×100
No2	0.03×80×120
No3	0.03×80×150
No4	0.03×90×170
No5	0.03×100×190
No6	0.03×100×210
No7	0.03×120×230
No8	0.03×130×250
No9	0.03×150×250
No10	0.03×180×270
No11	0.03×200×300
No12	0.03×230×340
No13	0.03×260×380
No14	0.03×280×410
No15	0.03×300×450
No16	0.03×340×480
No17	0.03×360×500
No18	0.03×380×530
No19	0.03×400×550
No20	0.03×460×600

またこの他にもお客様のご希望に合わせたサイズのポリ袋やポリ製品を作成することもできます。

詳しい商品に関しては弊社の担当営業か、営業2課までお気軽にお問い合わせください。

(お)

お気付きの点や質問、疑問などありましたら、ご遠慮なく営業または、下記までお問合せください。

お問合せ
メールアドレス
sg-arai-yoshio
@kamisugiura.co.jp

スギウラ株式会社027-361-5808

2012年9月1日 発行 第62号

特 集

・ たかさき能

・ 連続特集ユポ④

・ 防災の日、災害対策あれこれ

・ 2課商品ラインナップ④

たかさき能

9月になりました。

今年の夏は、海の日くらいまでは涼しかった気がしますが、それを過ぎたあたりからは毎日猛烈な暑さで、しかもそれが長く続きました。今月くらいになると流石に、昼はともかく朝夕は大分涼しくなって、いよいよ秋の訪れを感じずにはいられません。夏が暑く、秋の朝晩が冷え込むと、紅葉がより綺麗になるそうです。この秋はそれも期待したいですね。

さて来る10月20日(土)、群馬音楽センターにおいて恒例の、第27回たかさき能が催されます。演者は今年も、観世流シテ方・梅若玄祥です。演目は「鉢木(はちのき)」。ご存知の方も多いかとは思いますが、上野国・佐野(高崎市佐野町)が舞台です。当代一流の能楽師が、地元が舞台の能を舞います。

物語は、全国を旅する僧(正体は鎌倉幕府五代執権・北条時頼)が信濃から鎌倉へ向かう途中、大雪に降り込められ難儀していたところを、ある家に泊めてもらうこととなります。そこで主人(シテ=主役・佐野常世(さの・つねよ))が僧に暖を取らせるために秘蔵の盆栽の梅・松・桜を切って薪にします。僧が主人の身の上を聞くと、家臣に横領され今は貧乏暮らしだが、事があれば鎌倉に一番に馳せ参じ、戦う覚悟だと話します。

能を観る人は現在、さほど多くはなく、またこの曲で高らかに謳われた忠義の心も、省みられることは殆ど無いかもしれません。しかし現在でも佐野には彼を祀った「常世神社」があり、また地元・佐野小学校ではかつて、組の名前が梅・松・桜でした。

時代は変わっても、能で伝えられた精神は今も息づいています。地元が舞台のこの曲で能の幽玄の世界に浸り、往時に思いをはせるのもまた良いものではないでしょうか。

(A)

弊社は企業文化活動の一環として「たかさき能」に積極的に協賛し、

実行委員会の一員として運営に携わっています。

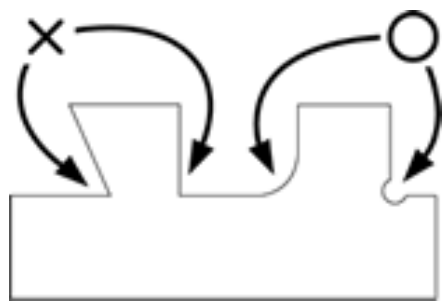
連続特集ユポ④

弊社では8月～10月にかけて「ユポ・キャンペーン」を行っています。お買い上げ金額に応じて景品を進呈いたしますので、詳しくは弊社営業までお問い合わせ下さい。

今回はユポの加工についてのお話です。ユポでも製本、ラミネート、打ち抜き（型抜き）、ドリリング（穴あけ）、折り、ミシン目など様々な加工が可能です。ただ、通常の印刷用紙とは構造が異なりますので注意が必要です。今号では無線とじ製本、打ち抜き、ドリリング、ミシン目入れについて、簡単にご説明します。

○無線とじ製本の場合は、紙の製本より深く、広範囲に“ガリ入れ”をする必要があります。ガリ入れとは、表紙・本文間の糊の接着を良くするために、本文の背の部分にキズをつける工程を言います。他に、通常の紙の本の表紙にしたり、差し込みページに使用することは避ける必要があります。ユポと接触する紙のインキ中の溶剤が、ユポを膨潤させてしまい、波打ちやカールを引き起こしてしまうためです。

○ 打ち抜き（型抜き）の際、凹部分は必ず角を丸くしてください。鋭角ではその部分から裂け易くなってしまいます。デザインの段階から考慮する必要があります。



※この図はユポのホームページより抜粋しました。

○ドリリングは6mm以上の刃径を使用してください。それ以下ですと刃が折れやすくなります。ドリリングをする前には十分に紙間から空気を抜き、一度のドリリングは20mm以下で行ってください。

○ミシン目を入れる場合は、ユポの紙目に注意が必要です。タテ目とヨコ目ではユポの引きちぎりが異なるので、事前に刃型の調整をしてください。また、ミシン目は正確で真っ直ぐなラインで入れてください。

※ここで気を付けなければならないのが“ユポの目”です。通常の紙ですと、サイズの表示は「幅×流れ」です。例えば、880×625であればA判のヨコ目となります。しかし、ユポの表示は「流れ×幅」となっていますので、A判のヨコ目は、625×880と表示されます。ユポはグレード（種類）ごとに紙目が決まっています。同グレードでタテ目とヨコ目があるわけではありませんので、製作の段階から紙目に注意が必要です。

	UNCUT 部	CUT 部
目と平行に入れる場合	0.8～1.0mm	2.0～3.0mm
目と垂直に入れる場合	0.5mm 以下	2.0～3.0mm

以上のような打ち抜き、ドリリング、ミシンなど、刃を使う加工に共通して注意しなくてはならないことは、必ずシャープな刃であることです。傷のある刃で加工した場合、ユポの層が剥離してしまう可能性があるためです。

他にも様々な加工方法がありますので、詳しくは弊社営業までお問い合わせ下さい。

(K)

防災の日・災害対策あれこれ

9月1日は『防災の日』です。災害に対する備えや心構えは万全でしょうか？9月1日は、関東大震災（大正12年）が発生した日です。14万人以上の死者と44万棟以上の家屋焼失を招いた大震災でした。9月1日を『防災の日』と定めたのは、この甚大な被害を忘れないようにするためと、暦の上では二百十日にあたり台風シーズンを迎えることから、国民に喚起する目的で、昭和35年6月17日閣議の了解のもとに決定されました。1年に1回しかない『防災の日』に防災意識の再確認を行い、今後起きるであろう、大震災や災害に備えていきましょう。

地震といえば、東日本大震災は記憶に新しいところですが、被害を最小限にとどめるため事前に以下のことを確認しておくことが大切です。

- ・火災を起こさないため、日ごろから火気器具の点検・整備をして、家から火を出さない環境づくりに心がける。
- ・避難場所や避難経路の確認、役割分担などを事前に家族で決めておく。
- ・ブロック塀や石垣、不安定なアンテナや屋根瓦は補強をする。
- ・プロパンガスのボンベは鎖でしっかり固定しておく。
- ・家具や大型家電製品などの転倒防止策を行う。

実際に地震が起きた場合、被害を大きくさせないためには、状況をよく把握し、落ち着いて以下のように行動することが大切です。

- ・テレビ・ラジオで正しい情報を入手する。
- ・すばやく火を消して、火を使わないようにする。
- ・ドアを開けて出口を確保する。
（あわてて外にはとび出さない）
- ・山間部や海岸地帯で地震を感じたら、がけ崩れ・津波に注意し、早めに避難態勢をとる。
- ・消火器・消火用水の置き場所を確かめる。
- ・電話の使用、車の運行は控える。
（避難は徒歩で）
- ・子供・老人・病人の安全を確かめる。
- ・エレベーターは使わないようにする。
- ・スーパーや公共機関にいる場合は係員の指示や誘導に従う。

地震が落ち着いたら災害伝言ダイヤルを利用し、事前に家族で打ち合わせていた避難場所に向かい家族や知人の安否を確かめるといいです。災害用伝言ダイヤルは、地震、噴火などの災害の発生により、被災地への通信が増加し、つながりにくい状況になった場合に提供が開始されます。地震が起きる前に備えとして利用方法などを理解しておくことが大切です。

日ごろから地震対策に非常時の持ち出し用品の準備をしておくことも大切です。非常用持出品を確かめ、飲料水・食料・救急医薬品・生活必需品・防災用品を備えましょう。備蓄食料は最低でも3日分の用意をしておく必要があります。保存食は、保存期間の長いものを選び、温度・湿度の低い場所で保存しましょう。缶詰、インスタント食品、レトルト食品、パック入り切り餅などが適しています。ひとりで1日に必要な飲料水は3リットルぐらいです。賞味期限がおよそ2年近くあるのでペットボトルのミネラルウォーターは保存に便利です。保存する場合は直射日光をさけてください。震災後に給水を受ける時には、ポリタンクなど清潔でフタのできる容器を用意しておくことも大切です。「非常持出品」は、すぐ持ち出せる場所に置き、緊急避難のときに持って逃げ、「非常持出品」と災害後の生活をささえる「非常備蓄品」と分けて備えましょう。

地震や豪雨などの災害は、いつどこで襲ってくるか分かりません。家庭や地域、職場などで日ごろから避難場所や非常用品の確認を行っておくことが大切です。

（お）